

アルジェリア民主人民共和国ナショナルデー（7月10日）

大阪・夢洲で開催されている万国博覧会では、参加各国に一日ずつ「ナショナルデー」が定められています。7月10日のアルジェリア・ナショナルデーのために本国から **Nadir Larbaoui** 首相が来日され公式式典、パフォーマンスが会場の東南端にあるナショナルデー・ホールで開催されました。

午前11時に式典の始まる前からステージ横のスクリーンにはタシリ国立公園の岩絵、ティムガッドの遺跡、日本の過去最大のプラントといわれるアルジェリア東西横断高速道路、ネルソン・マンデラ・スタジアム、サハラ砂漠に広がるソーラー・パネルそして各種の最新鋭工場の稼働の様子などが映し出されていました。

式典ではまず日本政府代表として竹内・経産省政務官からアルジェリアとの協力関係、アニメなど現代日本文化が受けている支持についてお話がありましたが、**Larbaoui** 首相からは近年のアルジェリアの急速な経済発展を強調し、多くのスタートアップ企業を抱えるアルジェリアへの日本からの投資、起業・革新への協力を求めるお話をされました。日本の多くの方には未知のままのアルジェリアの伝統的かつ斬新な文化に触れる機会は、後の歌と踊りの演出が用意されていました。

首相は一貫してアラビア語で話され、スクリーンには邦訳と英訳が写しだされました。この日一日を通じてフランス語の存在が無く、アルジェリアとフランスの今の関係を反映していました。

フランス核実験がアルジェリアにもたらした被害についての短いドキュメンタリー映像のあと式典のハイライト、アルジェリア各地に伝わる音楽と踊りの披露に移りました。アルジェリア共和国の「クラシック音楽」とされるアンダルス音楽のアーチスト9人がステージの大スクリーン前に陣取って演奏を始め、次いで各地の代表的舞踊——アラウィの男性舞踊、カビリの女性舞踊、テルギ（トゥアレグ）の戦士の踊り、ティンディ、シャウイの女性の踊りなど——のダンサーが次々に登場、アルジェリア文化の多様性を印象付けていました。ダンサーの民族衣装はたいへん丁寧に、華やかに作られたもので背景の大スクリーン上の鮮明で個性的な現地の映像とよく合ったものでした。音楽そのものもけっして素朴なだけではなく音楽としての完成度、録音技術が世界の音楽愛好家の鑑賞にたえるクオリティまで洗練されているのが現代アルジェリア文化の強みなのを示していました。

音楽が終ると **Larbaoui** 首相が **Toufik Milat** 在日大使らと共にアーチストたちの真ん中に立たれ、演奏した人たちと握手されて一同で出席者に挨拶をされて、式典は終わりました。

一方万博会場内、「アルジェリアの光輝」**Anouar el Djazaïr** と名づけられたパビリオンでは、スタッフが「アルジェリアの光を発見しましょう」と書かれたTシャツで入館者を迎

えてくれました。ナショナルデーの映像と同様、過去から現在に至るアルジェリアの歴史と多様性を喚起する内容の映画と解説パネルの展示でした。

会場から地下鉄、ニュートラムを乗り継いで行く大阪南港のホテルで、19時30分から開かれた首相主催のディナーは完全にノンアルコールで、生け花のパフォーマンス以外はアンダルス楽団による演奏がずっと続くシンプルなものでしたが、客席には式典で活躍した民族衣装のダンサーが控えていて、たいへん華やかさを感じさせるものでした。

(粕谷祐己)

協会注：万博公式ブログのアルジェリア・ナショナルデーのサイトを参考までに添付します。当日の画像やパビリオンの外観の写真などがあります。

サイトは https://www.expo2025.or.jp/officialblog/nd_0710/ です。